

65 Thymidine phosphorylaseと卵巣内血流動態との関連性に関する検討

島根医大

秦 幸吉, 秦 利之, 北尾 学

〔目的〕血管新生物質の一つであるThymidine phosphorylase(TdRPase)活性と卵巣内血流動態との関連性について検討することを目的とした。
〔方法〕正常卵巣8例（黄体期に黄体を有している卵巣3例、黄体を有していない卵巣2例、卵胞期の卵巣1例、閉経後卵巣2例）、卵巣腫瘍8例（ムチン性嚢胞腺腫2例、子宮内膜症2例、漿液性嚢胞腺腫1例、充実性奇形腫1例、線維腫1例、増殖性Brenner腫瘍1例）を対象とした。卵巣摘出前24時間以内に経膈カラーおよびパルスドプラ法を施行し、得られた血流速度波形のpeak systolic velocity(PSV)、resistance index(RI)を算出した。摘出後、最小のRIを呈す血流速度波形が記録された部位の組織片を採取した。血流が検出されなかった場合はB-mode断層図上、hypoechoic、hyperechoic、充実性を示した部位の組織片を採取した。TdRPase活性の定量は2種類の抗ヒトTdRPaseモノクローナル抗体を用いたSandwich ELISA法にて行った。〔成績〕1)10例で血流が検出でき(PR群)、6例で血流が検出できなかった(NR群)。NR群は充実性奇形腫1例、黄体期の黄体を有していない卵巣2例、卵胞期の卵巣1例、閉経後卵巣2例であった。TdRPase活性はPR群では 19.2 ± 13.4 Unit/mg protein、NR群では 10.3 ± 7.7 Unit/mg proteinであり、PR群が高い傾向であったが両群間に有意差は認められなかった。
2)PR群ではTdRPase活性(x)とPSV(y)との間に $y = 2.63x + 0.64$ ($R^2 = 0.88$, $p < 0.001$)と有意な相関が認められた。TdRPase活性とRIとの間には有意な相関は認められなかった。〔結論〕正常および卵巣腫瘍内の血流動態、特にPSVにTdRPase活性がある程度関与していることが示唆された。

66 卵巣明細胞腺癌におけるホルモン性高Ca血症の発現頻度と発生機序についての検討

癌研

梅澤 聡, 陳 瑞東, 清水敬生, 竹島信宏, 加藤友康, 山内一弘, 荷見勝彦

〔目的〕ホルモン性高Ca血症(HHM)症候群を卵巣癌でみることは稀である。しかし、明細胞腺癌は他の組織型に比べHHMの報告が多い。本報告は、卵巣明細胞腺癌にみられる高Ca血症の発現頻度を検討するとともに、原因がParathyroid Hormone-related protein (PTH-rp)産生によることを血清、尿中ホルモン測定、骨代謝マーカーの測定により明らかにする。〔方法〕対象は1974-1995年までの期間に当科で、病理標本により卵巣明細胞腺癌(Clear)と診断された64症例である。対象となった症例の治療前血清補正Caを検討すると共に、同時期に当科で治療を行った漿液性嚢胞腺癌(Serous)169例についても同様に検討し、高Ca血症の発現頻度を比較した。また、血清補正Ca値が 11.0mg/ml 以上を示した症例については、血清、尿中ホルモン測定、骨代謝マーカーの測定を行った。〔成績〕高Ca血症の出現頻度はClear25%(16/64)、Serous4%(7/169)であった。また、骨転移を認めた症例はなかった。血清補正Ca値が 11.0mg/ml を示した症例はClear7例、Serous0例であった。Ca値 11.0mg/ml 以上のClear7例全例がPTH-rpが高値($20.2-67.3$, mean 46.6)を示し、 $1,25(\text{OH})_2\text{D}$ は低値を示した。さらに、骨形成マーカーintact-Osteocalcin, fragment-Osteocalcinが低値、骨吸収マーカーであるPyridinoline, Deoxypyridinolineは高値であり骨代謝はuncouplingであると推測された。〔結論〕明細胞腺癌は高Ca血症の合併率が高く、明細胞腺癌における高Ca血症は腫瘍産生と考えられるPTH-rpによって起こるHHMであることが証明された。